

## 町田市立図書館の次世代図書館情報システムを構築 ～カメレオンコードを用いた図書管理ソリューションを提供～

NTT データは、町田市立図書館より次世代図書館情報システムを受託・構築し、2015年3月5日より提供を開始する。本システムにおける図書管理領域では、カラーコードの「カメレオンコード (Chameleon Code)」を資料に貼付して管理を行い、「蔵書点検」と「セルフ予約棚」を実現している。

近年、在庫管理や物流管理にカメレオンコード等のカラーコードやRFIDの活用が進むなど、物品を次世代タグで管理する技術が進歩してきている。図書館においても、次世代タグに対応する図書管理システムの導入が徐々に普及してきており、蔵書点検や貸出処理に活用するなど、業務の効率化や利用者の利便性向上を図るシステムの高度化が求められている。

これまで図書館における資料管理の高度化はRFIDが主流だったが「内部損傷が外部から判別できず、正確な処理結果の確認が難しい」などの問題があった。そこで今回、NTT データは「安価で衝撃等に強く、処理結果の確認が容易」なカメレオンコードを用いることで、管理の効率化を実現する次世代図書館システムを構築した。

NTT データでは、町田市立図書館のシステム高度化ニーズに対応するため、本ソフトウェアを用いた図書館システムを構築した。カメレオンコードは、接写をする必要がなく画像の一部にカメレオンコードを入れて撮影するだけで認識ができ、かつカメラ撮影範囲にある複数個のカメレオンコードを高速に認識することが可能だ。認識コードの損傷があった場合にも視覚的にわかりやすく、図書館における管理業務の質と効率の向上が図れる。今回構築した図書館情報システムでは、「蔵書点検システム」と「セルフ予約棚」の部分において、カメレオンコードを採用している。

◆蔵書点検システム：持ち運び等の利便性の良いスマートフォンやタブレット端末で利用できるiPhoneアプリとして実装。図書館スタッフは、カメレオンコードが貼付された資料にスマートフォンをかざして動画撮影することで、書架に資料が存在するかどうかの在架情報登録を行うことができる。

◆セルフ予約棚：資料がどの棚に存在するかを認識する仕組みを活用し、予約した図書の受け取りから貸し出しまでをセルフサービス化するシステム。①予約コーナー入口にある予約照会機に利用者カードをかざすと、利用者が予約しておいた資料の棚位置が印字されたレシートが発行され、②これをもとに利用者自身で予約本を見つけ、③セルフ貸出機にて貸出処理を行うことが可能。

本ソフトウェアは、棚に備え付けられたカメラが資料に貼付されたカメレオンコードを定期的に読み取り、自動的に資料の棚位置をシステムに反映することで、リアルタイムな棚位置情報更新を実現している。本ソフトウェア導入のメリットは次の通りだ。

- ・複数同時認識による棚卸業務の効率化
- ・見える化による確実な蔵書点検
- ・低コストでセルフ予約棚の構築を実現
- ・「セルフ予約棚」における専門性向上とプライバシー保護
- ・普及機の活用と将来性

今後、NTT データは、本ソフトウェアを、図書館を中心に公的機関や金融機関などの膨大な資料管理が必要な分野において提供していく。

NTT データ 公共システム事業本部 PFI 推進部  
PFI 推進担当 TEL：050-5546-8371